

## あ　と　が　き

岡山大学医学部附属環境病態研究施設は平成3年4月12日に廃止され、成人病学，リハビリテーション外科学，基礎環境病態学の3分野はそれぞれ，循環器内科学講座，心臓血管外科学講座，附属分子細胞医学研究施設細胞工学部門に転換しました。三朝における温泉研究は，昭和14年に岡山医科大学温泉療養所として発足，18年に放射能泉研究所の設置，26年の岡山大学温泉研究所への改称をへて，60年に医学部附属環境病態研究施設への転換と継続されてきました。今回の改組転換で医学部附属病院三朝分院は残り，温泉研究所の医学系部門を引き継いだ環境病態研究施設は上記のように転換し，鹿田地区で活動をはじめることになります。

三朝地区の学術成果を発表する場としての研究報告も，昭和23年の放射能泉研究所報告を第1号として，第5号で岡山大学温泉研究所報告となり，第56号まで発行，これを受けて第57号から本号までの6冊が環境病態研報告として刊行されました。三朝地区の学術活動を記録する雑誌としての環境病態研報告としては最終号となりますが，三朝分院が残り，本誌も名称を変更して存続することが決っています。三朝地区での温泉を中心とする学術活動は大きな転機をむかえることとなりますが，今後も三朝の特性を生かした研究活動は続きます。

環境病態研究施設は昭和60年の発足から，成人病学分野が脾胃を中心とする消化器を，リハビリテーション外科学分野が末梢循環，人工血管を研究してきました。遅れて昭和63年から基礎環境病態学分野が活動を始め，細胞表面糖鎖構造と人工脂質膜の医学応用の研究をやってきました。これらの研究活動はそれぞれ臨床検査学講座，心臓血管外科学講座，細胞工学部門にひきつがれます。また一貫してアレルギーをテーマとする分院内科のグループは三朝で今後も研究を発展させることとなります。

研究活動のみならず，いろいろな面でのあたたかい御好意を感謝するとともに，今後の活動への御支援をお願いして環境病態研報告の結びとします。 (文責・保田)

## 編集委員 (五十音順)

稲山恒雄，出石通博，奥田博之，亀井清重，古元嘉昭，後藤生治，谷崎勝朗，原田英雄，保田立二<sup>(※)</sup>，吉田順子

(※) 編集委員長